



プレスリリース

令和4年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

社会的脆弱層のためのベルド・コミュニティセンター設立計画 供与式の実施

エレバン：令和7年10月21日

令和7年10月10日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「社会的脆弱層のためのベルド・コミュニティセンター設立計画」(供与限度額:92,159米ドル)の供与式が、タヴシュ州ベルド町において開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、アスタギク・ハコビャン・ベルド町長、インガ・ハルチュニャン・パハパン開発基金代表、サンヴェル・ムヒタリャン・アルメニア使徒教会タヴシュ教区司教が出席したほか、行政職員や本事業関係者も出席しました。

本事業はベルド町に建設中のコミュニティセンター(4階建て、建設面積1,564平方メートル)の屋根、階段、窓、ドアを整備することで、同地域の社会的脆弱層の経済的自立及び生活の質向上の促進に寄与することを目的としています。同センターでは職業訓練、学童教育、心理社会的ケア等のサービスを提供する予定です。ベルド町には定職を持たない約3,000人の若者や女性、障害者を含む約1,800人の脆弱な状況に置かれた人々が暮らしており、被供与団体はこうした人々を支援してきましたが、2018年の火事や2020年の地震で被供与団体の活動拠点が被害を受け使用できなくなったため、活動休止に追い込まれました。他方で、2020年のナゴルノ・カラバフ紛争を逃れた避難民や新型コロナウイルス感染症の流行で家族を失った世帯への心理的ケアのニーズも増大し、社会福祉や教育サービスを提供する施設の整備が求められていました。

ハルチュニャン・パハパン開発基金代表は式典で、「日本の支援により、子どもたちが安心して学び成長でき、大人たちも社会的支援や職業訓練を受けられる近代的な施設が建築されました」と謝辞を述べました。また、青木豊駐アルメニア日本国大使は、「このセンターによりコミュニティが質の高い教育と社会福祉サービスを享受できるようになることを嬉しく思います。本事業はパハパン開発基金とタヴシュ教区が多くのドナーとともに取り組んだ強い協力の成果です。本事業が脆弱な人々への支援を通じて社会全体



の生活の質を底上げし、アルメニア全土で同様の取組のモデルとなることを願っています。」と祝辞を述べました。



本事業の裨益者との記念撮影



謝辞を述べる
ハルチュニャン・パハパン開発基金代表



祝辞を述べる 青木大使



本事業で設置された窓と屋根